

2019年室内環境学会学術大会 優秀ポスター賞 受賞の言葉

YP-13 床下地に着目した事務所における
2-エチル-1-ヘキサノールの実態調査と発生特性

土子あみ¹⁾, 鍵直樹¹⁾, 東賢一²⁾, 金勲³⁾, 柳宇⁴⁾, 藤田遼介⁵⁾

¹⁾東京工業大学, ²⁾近畿大学, ³⁾国立保健医療科学院, ⁴⁾工学院大学, ⁵⁾日本建築衛生管理教育センター

このたび、室内環境学会2019年沖縄大会で発表いたしました“床下地に着目した事務所における2-エチル-1-ヘキサノールの実態調査と発生特性”にて優秀ポスター賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。

近年、住宅の気密性・断熱性の向上により、室内における換気量の減少と、化学物質を用いた建材、家具等の増加により、揮発性有機化合物、通称VOCによる室内空気汚染が進み、居住者にめまい・頭痛等を誘発するシックハウス症候群が社会的な問題となっています。これらの状況を踏まえ、わが国では室内の空気環境の揮発性有機化合物に関して指針値が設けられるなど、対策が進められています。

本研究では、床材及び床下地に着目した事務所建築物の室内における実測によって2E1Hが空気質に大きな影響を与えていること、床の仕様別の検討により、コンクリート下地による2E1Hの二次発生に対する影響の可能性を示しました。また、コンクリートに接触させた建材からの発生実験によって、含水率が低いコンクリートパネルを使用することで、初期の2E1Hの発生を抑えることが可能であること、その後の発生速度は養生中の室内の温湿度の影響を受けること、等を報告いたしました。

今後は、室内の温度と湿度に注目した実験を行い、より詳細な2E1Hの発生特性を把握し、対策について検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究の遂行に多くの助言を頂きました方々に衷心より感謝申し上げます。

……著者データとプロフィール……



土子あみ
(つちこ・あみ)
東京工業大学
環境・社会理工学院
建築学系 修士課程1年



鍵直樹
(かぎ・なおき)
東京工業大学
環境・社会理工学院
建築学系 准教授



東賢一
(あずま・けんいち)
近畿大学 医学科
医学研究科
准教授



金勲
(きむ・ふん)
国立保健医療科学院
生活環境研究部
上席主任研究官



柳宇
(やなぎ・う)
工学院大学
建築学部
教授



藤田遼介
(ふじた・りょうすけ)
日本建築衛生管理教育センター
調査研究部